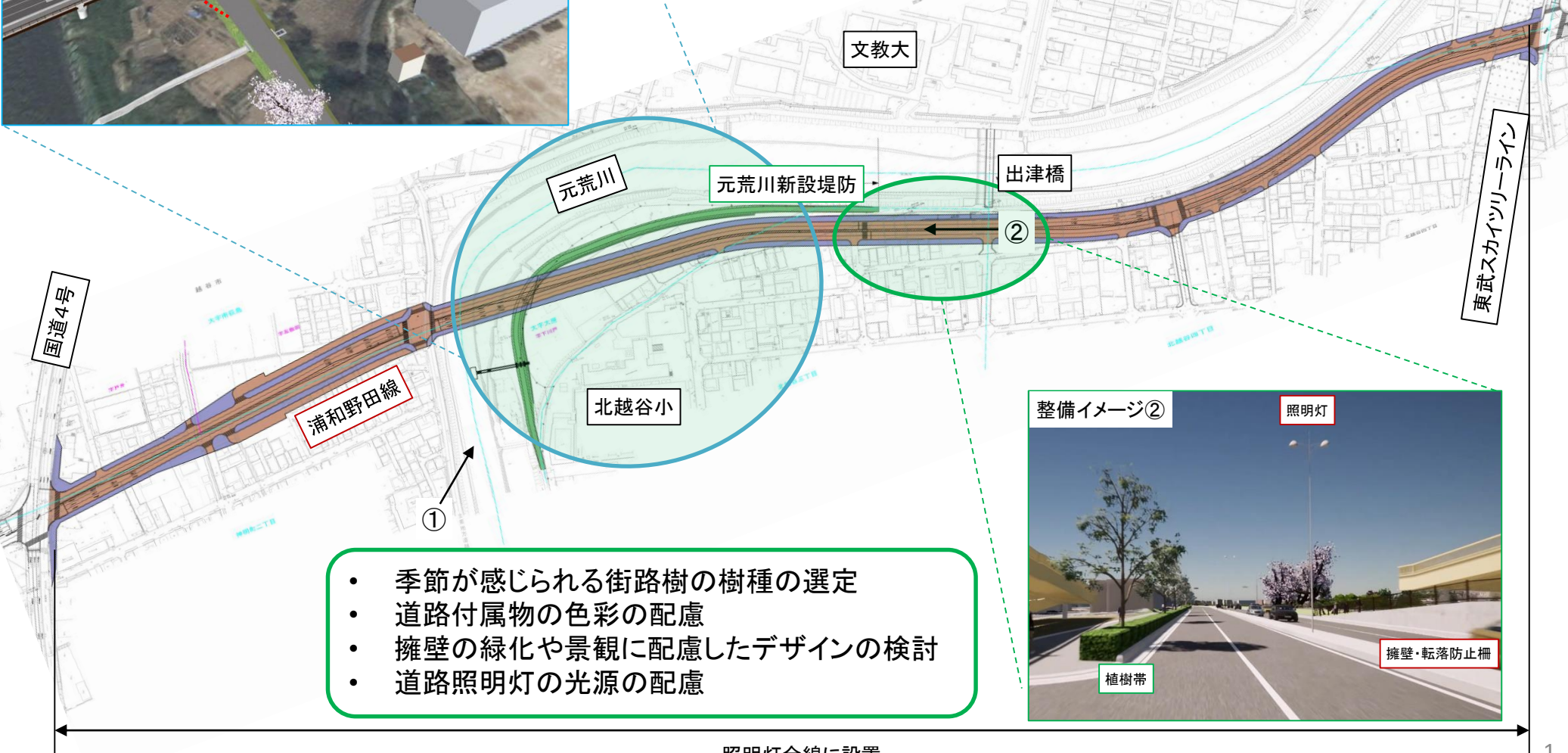


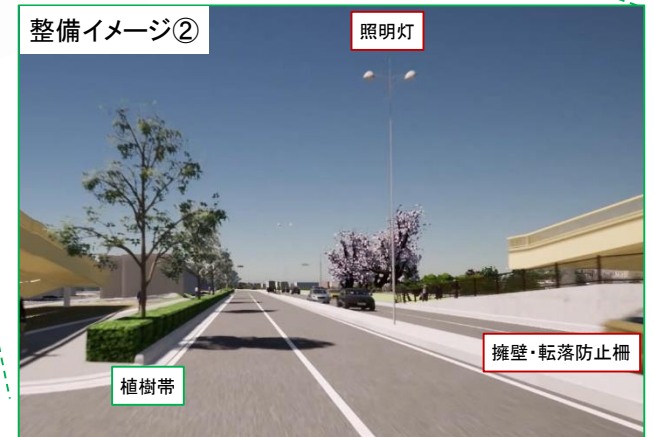
自然環境・景観対策について



- 道路と河川との間の土地を利用し、環境や景観に配慮した空間形成を検討
- 道路整備により分断される河川遊歩道の連続性の確保
- 法面の緑化



- 季節が感じられる街路樹の樹種の選定
- 道路付属物の色彩の配慮
- 擁壁の緑化や景観に配慮したデザインの検討
- 道路照明灯の光源の配慮



照明灯全線に設置

自然環境・景観対策について

●法面や擁壁部の緑化等

- 道路のり面や河川堤防については、張芝等を行う。
- 道路の擁壁部については、つる等による緑化や景観に配慮したデザイン等を検討していく。
- 道路と河川との間の空間に新たな植樹を行うなど自然環境や景観に配慮した空間形成を検討していく。また、道路整備により分断される河川遊歩道の連続性を図る。



法面緑化



擁壁の緑化



河川環境整備事例(新たな植樹)

●道路付属物の色彩

街路灯や転落防止策等の道路付属物は、背景に溶け込む色彩を基本とする。具体的には、植樹帯や樹木付近の場合は、ダークブラウン、建物付近は、グレーベージュとするなど風景に馴染む色彩とする。



景観色の転落防止柵(ダークブラウン)

「景観に配慮した道路付属物等ガイドライン」基本色



●季節が感じられる街路樹の樹種の選定

環境圧に強く、花・紅葉による四季の演出が可能な樹種を選定する。使用する樹種は、樹木間の関係に鑑みた「植栽計画」及び線的景観を踏まえた「配植デザイン」を検討した上で、選定を行っていく。

【参考】植樹帯樹種事例



高木:モミジバフウ



中木:ムクゲ



低木:ツツジ

●街路灯の光源

堤防の桜や植樹帯のみどりが本来の色で見えるよう、演色性の高い光源を使用する。

照明からの光が、周辺住宅の生活者、周辺の樹木、農作物、生物の生育・生存に有害な影響を及ぼさないように配置や器具配光に配慮する。



イメージ画像(他事例)



3Dイメージ動画キャプチャ画像